

## 平成25年度第1回ひろさき教育創生市民会議議事録

- 1 開催日時 平成25年7月18日(木) 午後2時から午後4時30分まで
- 2 場 所 中央公民館岩木館 大ホール(弘前市大字賀田一丁目18番地3)
- 3 出席者 委員31人のうち30人出席(代理出席3人含む)
- 4 議事要旨
  - (1) 開会
  - (2) 委員紹介
  - (3) あいさつ 弘前市長
  - (4) 議事
    - ① 組織会
    - ② 弘前市の教育について
    - ③ グループ討議
      - テーマ1 「よりよい教育環境の確保について」
      - テーマ2 「いじめや虐待のないまちづくりについて」
  - (5) 閉会

### ○内 容

(3) 葛西憲之弘前市長より、「まちづくりには人づくりであり、特に次代を担う子ども達の健全育成の取り組みは非常に大切である。本会議においては、将来の弘前市の教育の在り方について、様々な角度から意見や提言をいただきたい。」とあいさつがありました。



(4) 議事①組織会では、座長は伊藤成治委員、座長代理は鶴谷郁子委員に決まりました。

②弘前市の教育については、佐藤紘昭教育長が、弘前の全ての子ども達に質の高い教育と活力ある教育活動を保障するために、弘前市が進めている弘前教育活性化プロジェクトの取り組みや夢実現ひろさき教育創生事業の概要などを説明しました。



10分間の休憩後、4つのグループに分かれて、2つのテーマについて各委員が意見交換や情報を共有しながら討議を行いました。

## テーマ1 「よりよい教育環境の確保について」

討議時間 討議時間45分 各グループからの発表 1グループ3分

### 主な意見

#### Aグループ

- ・ 児童生徒数の減少や学校の老朽化を考えると、地域住民の理解のもと学校の統合も必要ではないか。
- ・ 非行の低年齢化の中で、子ども達同志がお互いに理解を深める機会や環境づくりが必要である。
- ・ 子ども達が健やかに逞しく育つためには、小さいころからの健康教育が必要である。
- ・ 子ども達の中には、課外活動を頑張っている子もいる。校外（放課後）の「学びの場」の充実が必要である。
- ・ 子ども達の目線で教育環境の充実を図ることが大切である。地域で学び合っていく意識と機会を大人たちが作っていくことが必要である。（環境を教育的に考える視点）



#### Bグループ

- ・ 情報機器の普及により、大人と同様に子どもたちは「個」で活動することが多くなっているのではないかと懸念している。コミュニケーションの希薄化を懸念している。集団活動を通じて人との関わり方や大切さを教育してほしい。
- ・ 小学校におけるスポーツ少年団や子ども会活動は地域によってバラツキがある。活動をつなぐ（横の連携）ために、地域（大人）の役割が重要ではないか。
- ・ 全国的には少人数学級を進めているところもあり、児童生徒に対するきめ細やかな授業が行なわれている。人数だけで学校の規模を考えてよいものか。

### Cグループ

- ・弘前で働ける場所が少ない。地域における人材育成や活用を考えると、小学校・中学校・高校の段階からの情報発信やその仕組みづくりが必要である。
- ・これからの時代は、体験重視型の教育を取り入れ、自ら考える力を養う教育が必要である。
- ・子ども達への心の教育（規範意識）や健康教育が必要である。
- ・小中連携の取り組みの充実が必要である。
- ・弘前市は農村部にある学校が多いため、農村部に住んでいる保護者などからも本会議において意見を聞く機会を設けてはどうか。



### Dグループ

- ・ネット社会を危惧する。子どもたちが見えにくい状況になっているのではないかと思う。
- ・すべての子どもがわかる授業（インクルーシブ教育）を是非進めてほしい。
- ・子どもは親（大人）を見て育つ。親力を高める取り組みが必要ではないか。
- ・学校の多忙感が気になる。教師を支援する人材が必要ではないか。行政は、地域にいる人材を把握し活用する仕組みづくりが必要である。
- ・何か問題があるとすぐに学校に求めてしまう傾向があるのではないか。学校や教師の頑張りを認める風潮が必要である。

### 【まとめ（座長）】

どこからどこまでが家庭教育か、学校教育か、社会教育なのか分からない時代である。  
今は、区別しないで総合的に考えた教育が必要であり、そのためには、学校や地域をつなぐコーディネーター的役割を担う人材を地域で発掘し活用すること、行政において仕組みづくりや支援することが必要である。

また、大人（親）が成長することにより子ども達の成長や発達につながる。  
大人（親）も成長する意識と行動が大切である。

## テーマ2 「いじめや虐待のないまちづくりについて」

討議時間 討議時間30分 各グループからの発表 1グループ3分

### 主な意見

#### Aグループ

- ・いじめや虐待は、周囲の人が早期に気づくことが大切であり、気づいたら関係機関と協力することが必要である。
- ・家庭においては、何でも話し合える親子関係を築くことが大切である。
- ・いじめは子ども達だけではなく社会全体にあることを認識し、市民みんながいじめや虐待をなくする機運を高めていくことが必要である。

#### Bグループ

- ・相談を待っているだけでは、いじめや虐待はなくなる。大人（地域）は、子ども達と関わる機会を積極的につくることが大切である。
- ・人権教育の拡充や授業参観などで親と子どもと一緒に考え、話し合う機会が必要ではないか。
- ・この会議を有効的に進め、いじめや虐待のないまちづくりに向けて発信してほしい。

#### Cグループ

- ・「なぜいじめや虐待は起きるのか」の原因を考えることが大切である。このことは迅速な初期対応につながる。また、早期発見には、いつも子どもに目を向けている教師の多忙化の解消も必要である。
- ・子どもに対する地域や教師の声掛けを積極的に行っていくことが大切である。
- ・地域、医療機関、行政を結ぶコーディネーターが必要である。
- ・一人一人の児童生徒にきめ細やかに対応することを考えると、少人数学級は有効であると考えられる。

#### Dグループ

- ・いじめに関する教育は言葉だけで教えるのは限界がある。トラブルを乗り越えることができる「学ぶ体験」も並行して行う必要があるのではないか。喧嘩をしたら謝る、許すといった経験が不足していることが、いじめ等がエスカレートしている原因ではないか。
- ・子ども達が夢中になれること、夢中になった経験が少ないのではない。打ち込める環境づくりが、いじめや虐待のない環境づくりにつながることもあるのではないか。
- ・人との接し方は、小さいころからの家庭のしつけが重要であると考えられる。

### 【まとめ（座長）】

いじめや虐待のないまちづくりは、一つ一つの積み重ねが大切である。

その中で、地域における取り組みがポイントである。現在、弘前市教育委員会では、16の中学校区を地域として捉えて様々な取り組みを進めている。まずは、地域における取り組みをしっかりと行っていく必要がある。

また、教師の育成については、いじめや虐待に関する知識や経験を積めるような授業や取り組みを行っているが、今後、様々な機会を通じて教師の力を高めていくことがより一層必要である。



次回会議	平成25年10月（予定）
場 所	未定
案件（予定）	本会議で出された意見や提案の中から、よりテーマを絞った討議を行う予定です。

議事録作成：弘前市教育委員会学校教育改革室